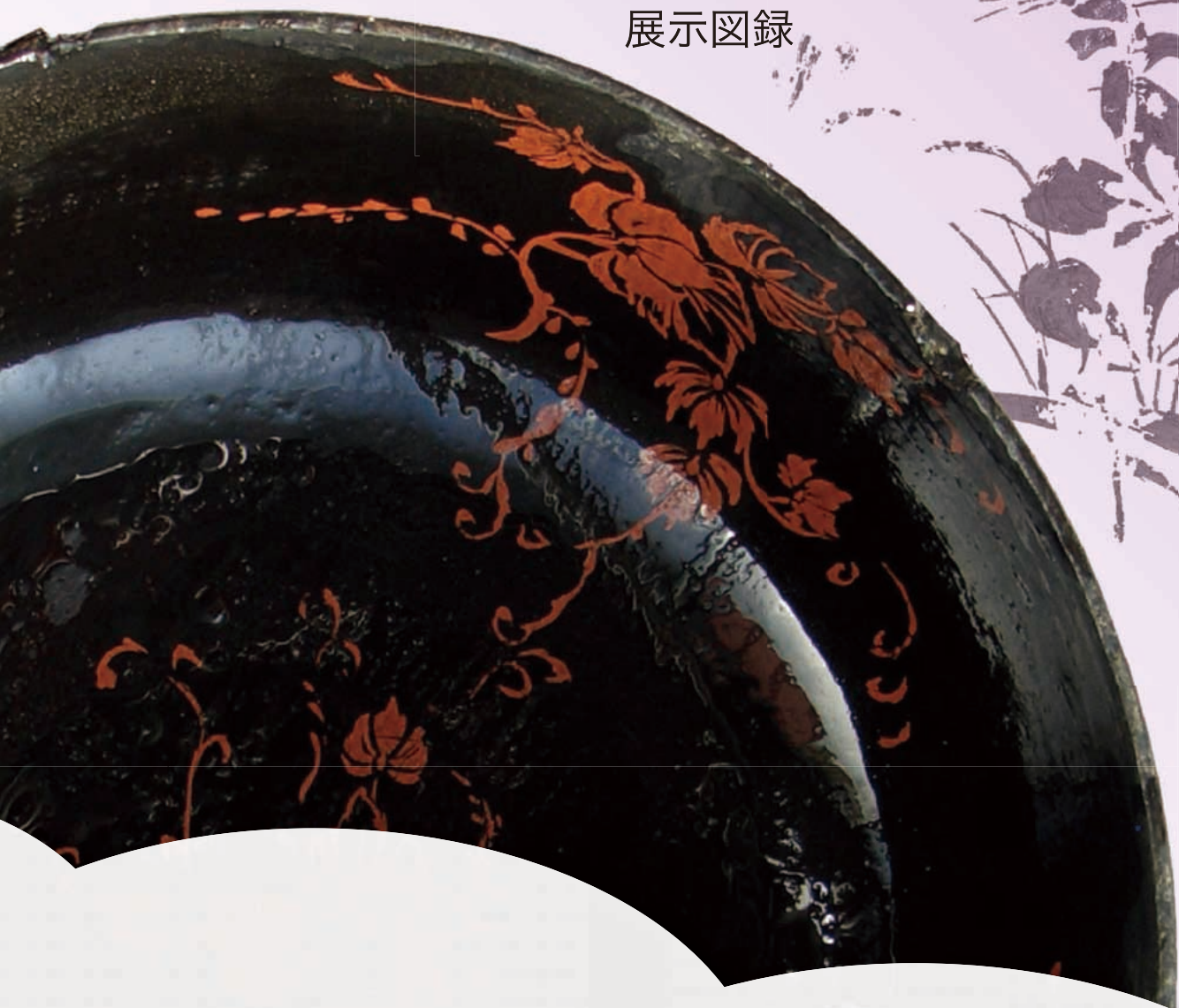


第24回

小さな展覧会

平成19年度京都府内遺跡発掘調査成果速報

展示図録



2008



(財) 京都府埋蔵文化財調査研究センター

展覧会開催にあたって

当調査研究センターでは、平成 19 年度に 21 件の発掘調査を行いました。今回の展覧会では、そのなかでもとくに注目された調査をとりあげ、京都府内の各関係機関の発掘調査結果と合わせて展示することにいたしました。

また、平成 13 年から平成 19 年度にかけて亀岡市で実施しました国営農地関係遺跡の調査成果にスポットを当て、合わせて展示を行うことといたしました。

この展覧会の目的は、前年度に京都府内で行われました発掘調査の成果を出土遺物や写真などによって紹介し、合わせて一般の方々に埋蔵文化財への理解を深めていただくことにありますが、そのためにも、よりわかりやすく、親しみやすい展示を心がけたつもりです。

今回の展覧会に後援をいただいた京都府教育委員会をはじめ、協賛をいただいた向日市文化資料館、いろいろとご協力を賜った各関係機関に対し、深く感謝します。

2008 年 7 月

財団法人 京都府埋蔵文化財調査研究センター

理事長 上 田 正 昭



1. 網野銚子山古墳
2. 谷奥古墳群
3. 湧田山 1 号墳
4. 俵野廃寺
5. 千束古墳群
6. 茶臼ヶ岳墳墓群・古墳群・経塚
7. 一の宮遺跡・難波野遺跡
8. 宮津城跡
9. 中山城跡・中山近世墓
10. 河守北遺跡
11. 室橋遺跡
12. 国営農地関係遺跡(p7 参照)・蔵垣内遺跡
13. 本能寺跡
14. 上里遺跡
15. 神足遺跡
16. 宇治川太閤堤遺跡
17. 平川廃寺
18. 薪遺跡
19. 高麗寺跡
20. 内田山古墳群
21. 恭仁宮跡
22. 史跡及び名勝笠置山

凡 例

1. 本図録は平成 20 年 7 月 19 日～8 月 24 日の第 24 回「小さな展覧会 ～平成 19 年度京都府内遺跡発掘調査成果速報～」の展示図録である。
2. 展示資料は、(財)京都府埋蔵文化財調査研究センターおよび各機関が主として平成 19 年度に発掘調査および整理作業を行った遺跡・遺物を対象とした。なお、展示資料中、都合により員数等が異なる場合がある。
3. 展覧会期間中の 8 月 9 日(土)に第 111 回埋蔵文化財セミナーを開催する。
4. 資料調査、図録作成、展示資料借用に当たっては次の機関から御指導、御協力を受けた。
(順不同・敬称略) 京都府教育委員会・京丹後市教育委員会・宮津市教育委員会・亀岡市教育委員会・亀岡市文化資料館・(財)京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館・京都市文化市民局・長岡京市教育委員会・(財)長岡京市埋蔵文化財調査センター・城陽市教育委員会・宇治市歴史資料館・木津川市教育委員会
5. 本図録は、京都府立山城郷土資料館の御協力を得て作成した。

表紙について：表紙は難波野遺跡出土の鎌倉時代の高級食器である漆絵漆器碗をモチーフにデザインしました。

遺跡あらがると

—縄文時代—

くらがいち 【蔵垣内遺跡】

亀岡市千歳町国分

当調査研究センター調査

亀岡盆地東部の段丘上に位置する遺跡で、縄文時代から鎌倉時代にかけての遺構・遺物が見つかりました。今回の調査では、縄文時代早期の土器が出土しましたが、竪穴式住居跡など、人々が生活していた痕跡は見つかりませんでした。また、弥生時代中期の溝や飛鳥時代の竪穴式住居跡などが見つかり、人々が住んでいたことがわかりました。



段丘上の縄文遺跡

ともおか 【友岡遺跡】

長岡京市友岡・下海印寺

当調査研究センター調査

小泉川左岸の段丘に立地する旧石器時代から中世の複合遺跡です。縄文時代から中世にかけての各時期の遺構、遺物が見つかりました。

縄文時代の竪穴式住居跡は規模などは不明ですが、住居内から後期の土器片（深鉢^{たたきいし}）や叩石、石錐などが出土しています。また、周辺からはマツリに使用されたとみられる石冠^{せつかん}や、石鎌^{せきぞく}なども出土しました。



友岡遺跡の竪穴式住居跡

かみさと 【上里遺跡】

京都市西京区上里

（財）京都市埋蔵文化財研究所調査

小畑川の河岸段丘に立地する縄文時代から中世の複合遺跡です。縄文時代晩期中葉（約2500年前）の住居跡や、土器棺墓、土壙墓^{どこうぼ}などが発見され、縄文晩期の様相を具体的に示す遺跡として注目されています。

また、弥生時代前期の土器棺が発見されていることから、縄文時代から弥生時代にかけて、人々が生活を行っていたことが伺われます。



上里遺跡の竪穴式住居跡

主な展示品

下の写真は、縄文時代の人々が煮炊きや食料の貯蔵に使用した様々な土器、おまつりに使われたと思われる特殊な石製品です。



縄文土器（福知山市河守北遺跡）
縄文時代後期（約4000年前）



縄文土器（亀岡市蔵垣内遺跡）
縄文時代早期（約9000年前）



石冠（長岡京市友岡遺跡）
縄文時代晩期（約3000年前）

遺跡あらがると

—弥生時代—

【茶臼ヶ岳墳墓群・古墳群】

京丹後市久美浜町橋爪

当調査研究センター調査

川上谷川右岸の丘陵上で、古墳時代前期の方墳とともに、^{ほうけいだいじょうぼ}方形台状墓という弥生時代後期の墓が2基みつかりました。木棺を納めた複数の埋葬施設から、棺の上に供えられた弥生土器（甕形土器）をはじめ、棺内の副葬品として、鉄製品の剣と^{やじり}鏃や、^{りよくしよくぎょうかいがん}緑色凝灰岩製の玉（管玉）が出土しました。当地域ではこの時期の墓は少なく、貴重な調査例です。



空からみた茶臼ヶ岳古墳群・墳墓群

【伊賀寺遺跡】

長岡京市下海印寺

当調査研究センター調査

小畑川左岸の段丘端に位置する集落跡です。弥生時代後期末の竪穴式住居跡や土坑、弥生時代から平安時代にかけての流路跡がみつかりました。弥生時代の住居跡は、一部が調査区からはずれますが、平面形は六角形と推定されます。床面には、高床部を設けていました。多角形で高床部をもつ住居は、播磨の周辺地域に多く、交流によってもたらされたと考えられます。



高床部をもつ多角形住居跡

【神足遺跡】

長岡京市東神足

（財）長岡京市埋蔵文化財センター調査

この遺跡は、溝に周囲を囲まれた環濠集落と呼ばれる弥生時代中期の乙訓地域を代表する集落遺跡です。

これまでに環濠や、建物跡、お墓などが発見されています。右の写真は、新しく見つかったシカを描いた土器の破片です。左を向いたシカの体には線刻により文様が表現されています。お祭りの際に使用された土器とみられます。



新たに見つかったシカの絵の描かれた土器

主な展示品

下の写真は、弥生時代の人々が煮炊きに使用した土器や、お墓にお供えした土器。お墓に死者とともに納められた鉄製の剣や矢尻です。



鉄器（京丹後市茶臼ヶ岳墳墓群）
弥生時代後期（約 1900 年前）



弥生土器（京丹後市茶臼ヶ岳墳墓群）
弥生時代後期（約 1900 年前）



弥生土器（長岡京市伊賀寺遺跡）
弥生時代後期（約 1800 年前）

遺跡あらかると

—古墳時代—

たにおく 【谷奥古墳群】

京丹後市弥栄町木橋・鳥取

当調査研究センター調査

竹野川西岸の丘陵上で14基の古墳を調査しました。8号墳は径14mほどの円墳ですが、長さ10.4m、幅4.1m、深さ1.2mの巨大な墓壙の中に、長さ7.3m、幅0.75mの木棺が据えられていました。丸太を縦に半裁し、中を刳り抜いた割竹形木棺わりたけがたと呼ばれるものです。副葬品は鉄剣1振、ヤリガンナ1本、鉄鏃8本が出土しました。5世紀代に造られたものです。



谷奥8号墳の長大な割竹形木棺

せんぞく 【千束古墳群】

京丹後市峰山町石丸

当調査研究センター調査

盆地から海岸部に通じる谷筋を見下ろす丘陵に築かれた古墳群で、5号墳と6号墳を調査しました。それぞれ木棺が1基見つかり、5号墳からは銅鏡や多数の玉類が、6号墳からは須恵器や鉄鐸・銅釦などが出土しました。5号墳は古墳時代中期、6号墳は古墳時代後期の古墳です。小規模な古墳ですが、銅鏡などの特殊な品物を副葬していることが注目されます。



鏡の出土した千束5号墳の埋葬施設

たきぎ 【薪遺跡】

京田辺市薪

当調査研究センター調査

手原川の扇状地に立地する遺跡です。奈良時代の土地開発で壊された古墳が4基見つかりました。

薪高木1号墳(中期・円墳、径20m)からは円筒埴輪、朝顔形埴輪とともに家形埴輪が出土しました。薪狭道1号墳(後期・円墳、径15m)からは甲冑形埴輪、鶏形埴輪、馬形埴輪、家形埴輪などの多数の形象埴輪が出土しました。



水田の下から見つかった埴輪をもつ薪狭道1号墳

主な展示品

下の写真は、お墓に葬られた死者とともに納められた鏡やネックレス。古墳に立てられていた甲冑を象った埴輪です。



神獣鏡(京丹後市千束5号墳)
古墳時代中期(約1600年前)



玉類(京丹後市千束5号墳)
古墳時代中期(約1600年前)



甲冑形埴輪(京田辺市薪狭道1号墳)
古墳時代後期(約1500年前)

遺跡あらかると

＝飛鳥～平安時代＝

たわらの 【俵野廃寺】

京丹後市網野町木津

当調査研究センター調査

俵野廃寺は、大正 11 年の耕地整理に伴う俵野川改修工事の際に発見された飛鳥時代の（白鳳期）寺院跡です。その際、塔の心礎と思われる礎石と飛鳥時代後期の土器、複弁蓮華文軒丸瓦などが採取されました。今回の調査は、かつて礎石が発見された付近で行い、瓦の堆積を 2 か所検出しました。出土遺物では七葉の花卉をもつ軒丸瓦も出土しました。



多数の瓦の出土状況

むろはし 【室橋遺跡】

南丹市八木町室橋

当調査研究センター調査

室橋遺跡は亀岡盆地の北端部にある古墳時代から平安時代にかけての集落遺跡です。昨年度の調査では、平安時代後期（11 世紀後半～12 世紀前半）に掘られた幅 4m、深さ 1.5 m の大規模な溝が見つかりました。周辺には、^{たかおじんごじ}高雄神護寺を再興した僧文覚^{もんがく}が造ったと伝えられる池や灌漑用水も残っており、この地域の水田開発が早くから行われていたことがわかりました。



平安時代後期の大規模な溝

く に きゅう 【恭仁宮跡】

木津川市加茂町例幣

京都府教育委員会調査

恭仁宮は、聖武天皇により造られた奈良時代の宮都です。大極殿を囲んでいた大極殿院回廊^{だいごくでんいんかいろう}の北西隅付近で、回廊の屋根を支える柱が沈み込まないように柱の下に据えられた礎石の抜き取り痕跡を 11 箇所に見つけました。今回の調査により、『続日本紀』^{しよくにほんぎ}に記載されているとおり、大極殿とともに大極殿院回廊も平城宮から移築されたことが確認されました。



大極殿院回廊の柱の据え付け跡

主な展示品

下の写真は、古代寺院の屋根に葺かれていた 2 種類の軒丸瓦。底の外側に「西」と記された須恵器の杯身です。



軒丸瓦（京丹後市俵野廃寺）
飛鳥時代末期（約 1300 年前）



軒丸瓦（京丹後市俵野廃寺）
飛鳥時代末期（約 1300 年前）



墨書土器「西」（南丹市室橋遺跡）
平安時代後期（約 1100 年前）

遺跡あらかると

―鎌倉～江戸時代―

【難波野遺跡】

宮津市大垣・江尻

当調査研究センター調査

天橋立の北側にある遺跡で、弥生時代中期の石を貼った墓、古墳時代中期の海辺のマツリの跡、中世の建物跡や井戸跡などが見つかっています。また、平安時代後期の年号が記された木簡、鎌倉時代の漆絵漆器碗や皿などの高級食器も出土しています。遺跡周辺では古くから人々の営みがあり、古代～中世には丹後の中心的な地域となっていたことを物語っています。



難波野遺跡の漆器出土状況

【史跡及び名勝笠置山】

笠置町笠置

当調査研究センター調査

笠置山は、木津側から登ると険しい崖が続きますが、南は奈良県柳生から比較的楽に笠置寺に入ることができます。調査はその南側の小さな谷の中で行いました。1331年の元弘の乱で焼亡した堂宇と、使用されていた高麗青磁や土師器皿などが出土し、また、復興された堂宇を雨水から守るため、谷の端に造られた石組み溝や、花崗岩の大岩を削った溝などが発見されました。



「太平記」の記述どおりの遺構群

【宮津城跡】

宮津市鶴賀

当調査研究センター調査

宮津城は天正8(1580)年に細川藤孝が築城した宮津湾に臨む平城です。城跡南西隅の虎口と大手川沿いに続く城内道路が、関ヶ原の戦い後の京極高知による再建〔慶長5(1600)年、京極高広による整備〔元和8(1622)年から寛永2(1625)年〕、京極氏改易後の修復〔寛文7(1667)年〕と、短期間に改変を繰り返されている様子が明らかとなりました。



宮津城の城内石垣と通路

主な展示品

下の写真は、赤漆で草木の絵が描かれた漆絵漆器、銅で作られたお椀。江戸時代のお墓から出土した錫杖の飾り金具です。



漆絵漆器碗（宮津市難波野遺跡）
鎌倉時代（約800年前）



銅碗（笠置町史跡及び名勝笠置山）
鎌倉時代（約700年前）



錫杖（福知山市中山近世墓）
江戸時代（約300年前）

亀岡市内では平成13年から平成19年にかけて、国営農地再編整備事業や府道亀岡園部線の新設事業などに伴い、大規模な発掘調査が、当埋蔵文化財調査研究センター、京都府教育委員会、亀岡市教育委員会によって行われてきました。そこで、本年度は小企画として、この地域の遺跡にスポットを当て、各時代ごとに明らかになったことを見ていきたいと思います。

縄文時代

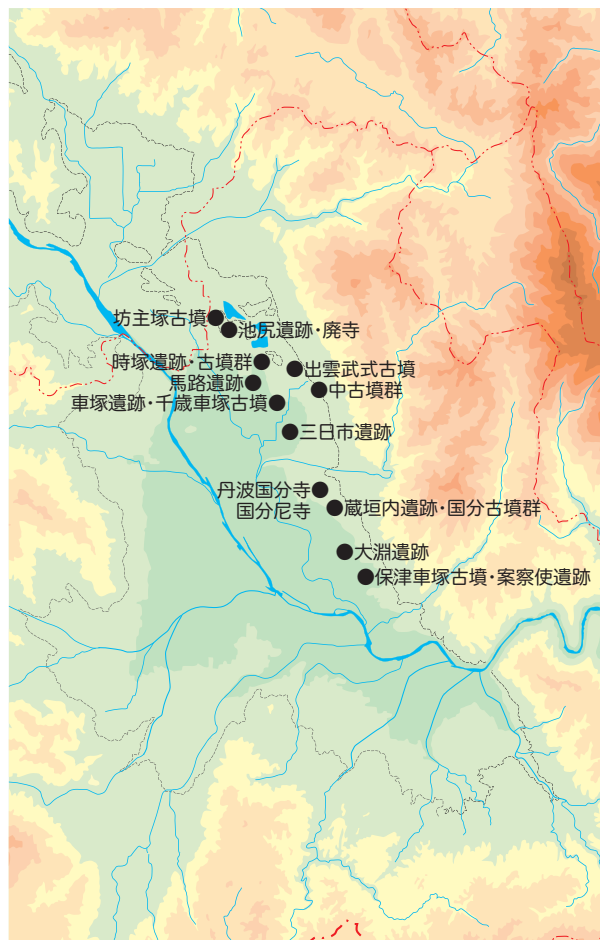
縄文時代は、狩猟採集を中心とした生活をしていました。当初、人々は自然の恵みを求めて季節によりその居住地を移しながら生活していたと考えられます。

保津川東岸の、もっとも古い時代の遺跡である案察使遺跡で縄文時代早期（約10000年前）の土器が出土しています。また、蔵垣内遺跡では少し新しい時期の土器が出土しており、人々がこの地で生活を営んでいたことが明らかとなりました。

時塚遺跡では中期末（約5000年前）の土器が土坑の中から出土し、また落とし穴とみられる穴や、狩猟用の石鏃が遺跡の各所から発見され、狩猟を行っていたことが明らかとなりました。

車塚遺跡では、後期（約4000年前）を中心とする土器・石鏃や石錐、石斧などの石器や、これらの石器をつくるときにでた失敗品や割れ屑などが多量に出土し、一定期間定住生活を行った居住域が存在したものと推定されています。この段階から定住生活が始まったとみられます。

縄文時代晩期（約3000年前）の遺物は、三日市遺跡や池尻遺跡など、各所から見つかっています。住居などの遺構は発見されていませんが、この時期にも連綿と人々の生活が続いていたことをうかがわせます。



保津川東岸の主要遺跡分布図



縄文時代の落とし穴と思われる遺構（時塚遺跡）

様々な縄文土器

縄文時代の土器はその文様が時代によって変化していきます。ここでは、特徴的な文様をもつ土器を時代順に並べてみました。



縄文土器（蔵垣内遺跡）
縄文時代早期（約9000年前）



縄文土器（時塚遺跡）
縄文時代中期（約5000年前）



縄文土器（車塚遺跡）
縄文時代後期（約4000年前）

弥生時代

弥生時代には、九州から西へ西へと米づくりが伝わってきます。稲作の開始により、人々のライフスタイルは一変したものと見られます。

おおぶち
大淵遺跡と池尻遺跡は前期（約 2300 年前）の遺跡です。大淵遺跡では竪穴式住居跡状の遺構が、池尻遺跡ではお墓と思われる遺構や溝がそれぞれ検出されています。おそらく、亀岡に稲作を伝えた人々のムラであったと思われます。

弥生時代中期初頭（約 2200 年前）には池尻遺跡に方形周溝墓と呼ばれるお墓が造られています。この頃から人口が増加していった可能性があります。

中期（約 2200 ～ 2000 年前）を代表する時塚遺跡では大規模な発掘調査を実施しました。この遺跡では弥生時代中期中頃から中期後半の大規模なムラとお墓が見つかりました。遺跡の北半が人々の居住する場所、南半が死者を埋葬する墓地として利用されていることが明らかとなりました。このムラでは石製の農工具や武器、アクセサリーである管玉などを生産していたことが分かりました。遺跡の規模から、この地域の中心的なムラであったと考えられます。出土した土器には近江、山城、摂津から運ばれたとみられる土器があり、人々は様々な地域と交流していたとみられます。

これらの遺跡以外にも、馬路遺跡や車塚遺跡から中期の方形周溝墓が見つっています。数多くの方形周溝墓は、弥生時代中期にこの地域に多数の人々が暮らしていたことを示しています。

弥生時代後期（約 1800 年前）の遺跡は多くはみつかっておらず、蔵垣内遺跡で竪穴式住居跡が、池尻遺跡では方形周溝墓がそれぞれ見つかり、案察使遺跡では粘土を採集したとみられる土坑が多数発見されています。



池尻遺跡の方形周溝墓群



空から見た時塚遺跡（方形周溝墓群）



時塚遺跡の円形竪穴式住居跡

時塚遺跡の遺物

時塚遺跡では、様々な土器のほか、石で作られた多様な道具類が出土しています。農作業に使用したものその他、戦いに用いられたものがあります。



さまざまな弥生土器
弥生時代中期（約 2000 年前）



鹿の線刻のある土器片
弥生時代中期（約 2000 年前）



石器（石斧・石剣・石包丁）
弥生時代中期（約 2000 年前）

古墳時代

古墳時代とは、東北から九州まで、画一的な大きなお墓が造られる時代です。ヤマト（現在の奈良県）を中心とした政治権力が存在したとみられています。古墳の形や規模は、葬られた人物の身分や性格を表しているとされます。

保津川東岸では、新たに、古墳時代前期の出雲武式古墳、中期の時塚古墳群、中古墳群^{なかつ}などが発見されました。古墳群はやや大型の方墳とそれに伴う小型の古墳で構成され、豪族の長とその縁者たちが葬られたとみられます。続く中期の終わりごろには前方後円墳である保津車塚古墳が調査され、石見形盾の木製品が出土しています。後期にはこの時期の丹波最大の前方後円墳である千歳車塚古墳が造られます。この地域に強大な豪族がいたことを物語るといえるでしょう。

古墳時代も終わりにになると、横穴式石室という石で組まれた墓室に複数の人を葬る古墳が出現します。こうした古墳は国分古墳群^{こくぶん}で総数 31 基が新たに見つかりました。中には国分 45 号墳のように八角形の墳丘を持つものもあり、中央との繋がりをもつ有力者のお墓と見られます。

ムラの様子は前・中期の竪穴式住居跡が少数、蔵垣内遺跡、時塚遺跡、出雲遺跡で見つっていますが、千歳車塚古墳を造るような有力者の居住していたムラとは思えません。また、池尻遺跡では中期末ごろに掘削された大規模な溝が見つかり、灌漑に伴う開発がなされたものと見られます。大淵遺跡でも後期の灌漑用の溝が確認されています。後期のムラとしては池尻遺跡や蔵垣内遺跡で大規模なムラが確認されています。とくに蔵垣内遺跡は国分古墳群に葬られた人々の居住していたムラとみられ、古墳群と集落のあり方を示す資料として注目されます。



時塚 1 号墳（中期・方墳）



保津車塚古墳（中期末・前方後円墳）



国分 45 号墳（後・終末期・八角形墳）

古墳時代の遺物

古墳時代の出土遺物には、古墳に立てられていた埴輪。死者とともに納められたとみられる緑色の石製腕輪、祭りに使われた子持ち勾玉などがあります。



石釦（出雲武式古墳）
古墳時代前期（約 1600 年前）



盾持ち人形埴輪（時塚 1 号墳）
古墳時代中期（約 1500 年前）



子持ち勾玉（池尻遺跡）
古墳時代中期（約 1500 年前）

奈良～江戸時代

奈良時代には律令制という法律に基づいた地域支配がなされていきます。

この地域には山陰道と呼ばれる国の管理する幹線道路があったものとみられます。山陰道は遺構としては確認されていませんが、山陰道推定地に沿って、国府の可能性のある池尻遺跡や、様々な役所の機能をもつ時塚遺跡などで一般集落とは明らかに異なる大規模な建物群が検出されています。古代の役所とみられ、今でいう官庁街のような様相を呈していたと見られます。これらの成果から保津川東岸はかつて古代「丹波国」の中心であったとみられます。

当時の中心的な地であったためか、奈良時代後半にこの地に丹波国分寺・国分尼寺が造営されます。これらの古代寺院は地方支配の要として造営されたとみられます。国分寺に関連する遺跡として、三日市遺跡で、国分寺の創建瓦を製作した瓦窯に伴うとみられる灰原や、瓦を中心とする多数の遺物が確認されました。

平安時代には馬路遺跡などで大型の建物が検出されていますが、全体としては遺跡数が減少しています。保津川の西岸に中心が移った可能性が考えられます。

平安時代には国分寺は勢力を失っていきますが、鎌倉時代以降に再興されたとみられます。その時に国分寺周辺で子院とみられる堀や溝で囲まれた建物群が蔵垣内遺跡で確認されています。これらの遺構の中からは中国や日本各地で生産された香炉、茶碗などの陶磁器や、茶臼などの茶器をはじめとする当時の優品が多数出土し、当時の国分寺の勢力を物語っています。この子院も安土・桃山時代には廃絶するようです。

これ以降、織田信長軍の丹波侵攻など、戦国・江戸時代を経てこの地域は、現在に近い景観となったものと思われま



池尻遺跡（奈良時代）



三日市遺跡（奈良時代）



蔵垣内遺跡（中世・国分寺の子院群）

三日市遺跡・蔵垣内遺跡の遺物

左は三日市遺跡で作られ、国分寺に供給された軒丸瓦2種。右はお墓に供えられたお皿と刀です。



軒丸瓦（三日市遺跡）
奈良時代後期（約 1350 年前）



範傷のある軒丸瓦（三日市遺跡）
奈良時代後期（約 1350 年前）



墓に供えられた遺物（蔵垣内遺跡）
鎌倉時代（約 700 年前）

関連遺跡年表

西暦	時代	日本のできごと・人物など	展示関係遺跡
-11000	旧石器時代	土器づくりのはじまり	蔵垣内遺跡（亀岡市）
-1000	縄文時代	米づくりが日本列島各地に広がる	時塚遺跡（亀岡市）
-300	弥生時代	大きなムラの誕生	車塚遺跡（亀岡市） 河守北遺跡（福知山市）
600	古墳時代	倭国乱	上里遺跡（京都市） 友岡遺跡（長岡京市）
710	飛鳥時代	239年 卑弥呼、中国王朝（魏）に朝貢	池尻遺跡（亀岡市）
794	奈良時代	前方後円墳の成立	神足遺跡（長岡京市） 時塚遺跡（亀岡市）
1192	鎌倉時代	倭の五王（讃・珍・済・興・武）	茶臼ヶ岳古墳群（京丹後市）
1338	室町時代	横穴式石室の普及 仏教伝来	伊賀寺遺跡（長岡京市）
1603	安土・桃山時代	聖徳太子の活躍	出雲武式古墳（亀岡市）
	江戸時代	645年 大化の改新（蘇我氏の没落）	時塚古墳群・中古墳群（亀岡市）
		672年 壬申の乱（大海人皇子が友皇子を討つ）	薪狭道1号墳（京田辺市）
		673年 天武天皇即位	国分古墳群（亀岡市） 蔵垣内遺跡（亀岡市）
		694年 持統天皇、藤原京遷都	高麗寺（木津川市） 平川廃寺（城陽市）
		710年 元明天皇、平城京遷都	倭野廃寺（京丹後市）
		740年 聖武天皇、恭仁宮造営	恭仁宮跡（木津川市）
		741年 国分寺建立の詔	池尻遺跡（亀岡市）
		749年 奈良の大仏開眼	丹波国分寺・三日市遺跡（亀岡市）
		784年 桓武天皇、長岡京遷都	長岡京跡（長岡京市）
		794年 桓武天皇、平安京遷都	河守北遺跡（福知山市）
		菅原道真（903年没）	室橋遺跡（南丹市）
		安倍晴明（1005年没）	
		1008年 紫式部、源氏物語執筆中	
		1185年 壇ノ浦の戦い、平家滅亡	蔵垣内遺跡（亀岡市）
		1192年 源頼朝、鎌倉幕府開く	難波野遺跡（京丹後市）
		1274年 蒙古襲来（文永の役）	史跡及び名勝笠置山（笠置町）
		1281年 蒙古襲来（弘安の役）	
		1331年 元弘の変（後醍醐天皇、幕府により流刑）	
		1338年 足利尊氏室町幕府開く	
		足利義満（1408年没）、北山殿（後の金閣寺）建立	中山城跡（福知山市）
		足利義政（1490年没）、東山殿（後の銀閣寺）建立	本能寺跡（京都市）
		1467～1477年 応仁の乱	宇治川太閤堤遺跡（木津川市）
		1573年 室町幕府滅亡	宮津城跡（宮津市）
		1576年 織田信長、安土城築城開始	
		1582年 織田信長、本能寺にて明智光秀に討たれる	
		1585年 豊臣秀吉、関白即位	
		1600年 関ヶ原の戦い	
		1603年 徳川家康、徳川幕府開く	
		1615年 大阪夏の陣、豊臣家滅亡	中山近世墓（福知山市）

第24回小さな展覧会 発行日 2008年7月19日

編集・発行 財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター 〒617-0002 向日市寺戸町南垣内40-3 TEL.075-933-3877 Fax.075-922-1189
 ホームページアドレス <http://www.kyoutofu-maibun.or.jp> 印刷 三星商事印刷株式会社
 （この図録には再生紙を使用しています）